

二葉

東京支部だより



ゆたかで生き生きとした同窓会に

十六年度支部長 岩井志ず子 (高校13回)

ここ数年、同窓会も過渡期に来てい
ると言うことが言われてきました。
私自身は昨年始めて同窓会の仕事に
かかわって、先輩諸姉の緻密で行き届
いた同窓会の運営に驚嘆し、二葉生の
真面目で堅実な一面を見る思いでした
が、一方で、今までのやり方に捉われ
ないもつと時代に合ったやり方を考え
るべきだ、という若い層の声にも同感
するものがありました。

昨年度の役員会でも同窓会のあり方
をたびたび論議し、運営も工夫してき
ましたが、同窓生にとって魅力的な内
容をどのように作ってゆくかというこ
とについても、今後一層検討されねば
なりません。今年度はそのひとつとし
て、会報発行を隔年でなく毎年にし
て、ゆくという方針を出し、第一回の幹事
会で承認されました。同期会の様子や
同窓生の多方面での活躍ぶりなども

とみなさんに知って頂いて、たてよ
の楽しいつながりがたくさん生まれ、
同窓会が生き生きとしたものになるこ
とを願っています。

昨年の総会の講演で、宮坂先生が芭
蕉と莊子にふれて、「無用の用」とい
うことをおっしゃいました。そして
「同窓会もそのようなものですかね」
と笑っておられました。が、「自分に利
益をもたらすものだけを追求する実利
的な社会のなか」で「無用の用」の意
味を考えさせられました。

共に過した過去を財産として、これ
からの人生を豊かにし励ましてくれる
ような同窓会にしてゆきたいものです。



東京支部の明るい未来を

—会員の中での議論を積み重ねて—

十五年度支部長 伊藤一枝 (高校12回)

会員のみなさん、お元氣にお過ごし
でいらつしゃいますか。
諸先輩が大切に育んでこられた八十
年の伝統をもつ東京支部を、新しい世
代が引き継いでいきやすいように改革
する——これが私たち十五年度役員会
の目標でした。

そのために維持費の口数制や寄付の
積極的募集、毎年の会報発行、情報発
信紙の発行、ホームページ創設など、

役員会で改革のアイデアを出し合い、
それらを幹事会や総会、正副支部長会
の議題とし、会員のみなさんのお考え
を伺わせていただきました。
即実現できることは少ないですが、
このように会員が一緒に考え、一人一
人の率直な意見を出していただけたこ
とに意味があったのだと思います。議
論を積み重ねる中から、世代や性別に
よる考え方の違いや、仕事を

継続する人の増加等生活実態の変化を
超えた、魅力的な活動内容や活動方法
が次第に生み出されると信じます。

十五年度は、幹事会の開催を三回か
ら二回に減らすこと、総会案内発送先
を機械的に宛名シールに打ち出すこと、
役員間の連絡のメール使用などが何と
か実現できました。また維持費と経費
の関係をグラフ化し、東京支部が置か
れている近い将来の財政困難を視覚的
にわかりやすく訴えることができたこ
ともよかったです。

母校二葉で身につけた会員の底力を
信じ、東京支部の明るい未来を期待し
ております。



諏訪二葉高等学校
同窓会長

三ッ橋紀代子（高校11回）

東京支部の皆様お元気でお過ごしでしょうか。
諏訪地方は、春の上社・下社の御柱に始まり、秋はそれぞれの小宮の御柱で土・日はどこかしこの町から木やり

や「ヨイシヨ・ヨイシヨ」の掛け声が聞こえ、この地は御柱に燃えた一年でした。

支部総会の折りには大変お世話になりました。新任の古原校長先生と私たち本部役員四名が参加させて頂きました。二百五十名を超える支部会員の皆様のご出席・母校への熱い思いに大変感動いたしました。

十月六日に行われました親睦バス旅行には東京支部からも八名の方が参加され、すばらしい旅行になりました。ご協力ありがとうございました。
前期役員の皆様の大変なご苦勞によ

り、財団法人育葉会解散の手續きが完了し、一四〇〇万円余の残余財産が同窓会の会計に移されました。この尊いお金は先輩の方々とも相談の上、使わせて頂きたいと考えております。

平成十九年に母校は創立百周年を迎えます。そのための準備が始まっています。今後会員の皆様には多くのご協力をお願いすることになると思っています。百周年を同窓生が一丸となってお祝いいたします。

東京支部の皆様今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

東京支部だよりに寄せて



諏訪二葉高等学校
学校長
古原 正之

母校に寄せる深い想い

今年の四月、皆様の母校に校長として赴任しました古原です。東京支部の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

す。素晴らしい伝統と実績を誇る学校に赴任しましたことに、大きな責任を痛感しております。

五月に、東京支部の総会に参加させて頂きました。本部総会を上回る会の盛況に、同窓生の皆様の幅広い活躍とともに、母校に寄せる深い想いを肌で感じる事ができました。

その母校は平成十九年度に創立百周年を迎えます。先日、同窓会・PTA・後援会・学校の四者からなる「百周年懇話会」が発足し、いよいよ準備がスタートいたしました。東京支部の

皆様にも様々な形でご協力頂きますようお願いいたします。

皆様の後輩の生徒たちは、勉学にクラブ・生徒会活動に大変前向きに頑張っております。「自主・努力・感謝」の校風が脈々と受け継がれていることを頼もしく、また、嬉しく思いながら、彼らの学校生活を見守っています。

長野県におきましては、今、様々な高校改革が進んでいます。本道を見失うことなく、これからも益々校名を高めるべく、出来る限りの努力をしたいと思っております。今後とも変わらぬご支援を重ねてお願いいたします。

☆☆平成14・15年度卒業生の動向☆☆

(1) 最近の進路状況 () 内は男子

卒業年度	卒業生総数	進 学		就 職		(浪人・家居)	
		人 員	比 率	人 員	比 率	人 員	比 率
平成14年度	247(84)	201(63)	81.3%	1	0.4%	45(21)	18.2%
平成15年度	240(80)	201(52)	83.5%	1	0.4%	39(28)	16.2%

(2) 最近の学校別進学状況 () 合格者延人数

卒業年度	国立大	公立大	私立大	国公短	私立短	専門	その他	計
平成14年度	36(39)	8(10)	73(169)	10(23)	22(30)	47(59)	3	201
平成15年度	46(47)	8(10)	91(174)	8(17)	13(27)	30(49)	5	201

恩師だより



思い出の二葉

山岸幸雄



を受けたのは生徒が勉強好きで探求熱心なことでした。授業中の質問や追求の鋭いこと、丁々発止の真剣勝負さながらで、長い教師生活を経た今も貴重な思い出です。素朴な時代であったとは言え、進学目的という打算とは無縁の向学心は何とも爽やかで強く印象に残りました。

一方楽しい行事も数多くあり懐かしく思い出されます。中でも三年に一度の蓼科大遠足は行事中の最大傑作でした。自動車道など全くない霧ヶ峰の原野を全校生徒が颯颯と歩いて行くさまは壮観で愉快でした。

昭和三十二年から四年間諏訪二葉高校にお世話になりました。教職五年目、三校目で年齢は二十代後半に入ったところ、無知・未熟プラス世間知らずというかなりいかがわしい教師でしたが、先輩・同僚の先生方の暖かい支えと生徒諸君が本当に気持良くつきあってくれたおかげで無事勤めることができましたと感謝しています。

戦後日本の復興期で社会は貧しいながら活気に満ち、生徒諸君がまた名門女子高生の誇りと実力で活動的、私も若くて怖いもの知らずで生徒諸君について行くというわけで、よくよく波長のあった教育環境でした。当然生徒会やクラブの活動も活発でスケート・バレエ・体操などすぐ活躍していたと記憶しています。しかしもつとも感銘

茅野高校長で退職。その後、予備校・短大に勤務。

現在「人生の QOL (Quality of Life) を高めていきたい」と、しばし自由を楽しまれているそうです。

二葉と私

角田美佐江

教職四十年何校かを経験した中で二葉は印象の深い高校です。諏訪湖の日に光る波、三協精機のオルゴールの音、二葉では登山やスキーを夢中になってやりました。登山をした翌日まだその余韻が覚めやらず、授業中山の話などしたものでした。生徒の方も英語の授業より山の話の方が楽しかったのでしょう、熱心に耳を傾けてくれました。ある時はまだ話を聞いていないクラスの子供から「私たちはその山の話をもだしていただいていません。」と要求されることもありました。富士山で方向を間違えた話等々。忘れられないのは、山岳部の生徒と北八ヶ岳に一泊で登り、翌朝霧を踏んで近くの池に洗面に行った時の景色、麦草峠の妖精が

踊っているような草原の美しかったこと。今ではすっかり変わってしまったていることでしょう。

英語の授業は厳しかったようですが、生徒はよく勉強してきました。偶々当たると困ると伏し目になっていると、心を見透かされたように当たってしまうことがあったようです。こちらは全然その気はなかったのですが。

夏休みの行事には御岳山登山、白馬岳登山、直江津への海水浴に参加しました。海では生徒と一緒に飛び込みを練習しました。白馬岳では、お花畑で男子先生方が少々アルコールを召し上がった後登りが大変だったこと。生徒曰く「先生たちは悪い水を飲んだから。」と冗談を言っていました。

当時は女生徒ばかり、何の問題もなく生徒は明るく活気があり楽しい学校でした。二葉で教鞭をとったこと今でも私の人生の大きな活力になっています。現在郷里飯田に住み毎日四十分位の散歩、旅行、下手な俳句を趣味としています。

角田美佐江先生プロフィール

根羽中学校・上田染谷丘高校・諏訪二葉高校・飯田風越高校・阿智高校・飯田長姫高校。

阿智高校では、男女共学校で教師として生徒と共に楽しみ、飯田長姫高校を最後に退職。現在に至る。



山岸幸雄先生プロフィール

諏訪二葉高校勤務後、須坂高校・上田高校・長野高校、松本筑摩高教頭・

平成十五年

総会報告

十五年度副支部長
加室弘子（高校12回）

外苑の緑が映える平成十五年五月二十三日、東京支部の定期総会が日本青年館で開催されました。母校を代表して竹花校内理事、恩師の諏訪坂先生、平林先生、同窓会の久保田会長らをお迎えし、出席会員は二五〇名でした。

北沢支部長は挨拶のなかで「東京支部は同窓生の心より所であり、駅伝の選手の心境と同じである。この伝統あるたすきを無事受けとめ次につなげていきたい」ことを強調されました。また竹花校内理事からは、男女共学になった最近の母校の近況として、生徒たちが勉学に運動に頑張っている様子をお話し頂き、うれしく思いました。

総会の第一部は、定期総会です。平成十四年度の事業及び決算報告等に続いて、平成十五年の事業計画及び予算案の各担当役員からの報告を受けて、会員の皆様からのご意見を多数頂きました。特に、会員名簿の管理の効率化を図ることによって幹事会の開催を一回減らすことや、維持費納入の減少化のなかでの名簿基金積立金等の予

算案の再検討等の提案に関しての会員の皆様からのご意見は、同窓会への期待の大きさを感じさせるものでした。

次に第二部は、彫刻家の井上玲子さん（高校三回卒）の講演です。演題「揺籃」の誕生「かたちとこころ」を、スライドやビデオを使用しながらお話しいただきました。会場内に設置された縮小サイズの「揺籃」に触り感触を確かめることもできました。

最後に第三部は、茶話会です。新しく幹事免除学年になられる高女三二回生の皆様から元気なご挨拶をいただきました。さらにアトラクションは、高校二〇回卒の福島裕子さん（バイオリン）と杉藤美知子さん（ピアノ）の息の合った演奏です。会場に流れる美しい旋律に、皆が心穏やかな時間を共有することができました。全体を通して、厳粛ななかにも和やかな雰囲気になって、平成十五年の総会でした。

参加者の感想から

*ビデオやスライドで『揺籃』作成の過程やご苦労がわかり、井上先生のお人柄と作品を身近に感じることができました。

*バイオリンの演奏は選曲も良く、美しい音色に聞き惚れました。

*『信濃の国』を久しぶりに歌えて良かった。これからも続けて欲しい。

平成14年度諏訪二葉高校同窓会東京支部会計報告書

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

1 本会計

＜収入の部＞ (単位：円)			
項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	2,256,540	2,256,540	
2 維持費	1,750,000	1,650,740	振替1,211,740(1,307名)、現金439,000(436名)計1,743名
3 雑収入	100	201	預金利息
収入合計	4,006,640	3,907,481	

＜支出の部＞ (単位：円)

項目	予算額	支出金額	備考
1 総会			
講師等謝礼	120,000	120,000	
会場費用・諸経費	86,000	427	
2 名簿積立金	200,000	200,000	名簿基金へ
3 会報作成費	250,000	195,073	編集・印刷費(4,000部)
4 弔慰金	30,000	6,300	弔文レタックス
5 役員通信費・交通費	100,000	95,340	役員通信費37,000、交通費58,340
6 役員会費用	100,000	78,540	役員会6回分
7 幹事会費用	400,000	396,612	幹事会3回分
8 送料・通信費	320,000	335,895	総会・幹事会案内送付、宅急便
9 印刷費・コピー代	65,000	64,370	封筒印刷、資料印刷、紙代
10 事務用品	15,000	10,472	
11 渉外			
二葉関係	84,000	76,800	本部総会交通費、歴代正副支部長会補助・旧役員懇労会補助
連合同窓会	56,000	58,000	東京同窓連、南信同窓連
12 雑費・予備費	30,640	18,702	振込手数料他 定期預金利息16,000を名簿基金に振替え
支出小計	1,856,640	1,656,531	
13 東京支部同窓会基金へ繰入れ	1,300,000	100,000	
14 次年度繰越金	850,000	2,150,950	
支出合計	4,006,640	3,907,481	

上記の通りご報告いたします。

平成15年3月31日

会計係 金子 絃 美 ⊗
 稲 村 和 子 ⊗

2 名簿基金

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	782,000	782,000	
2 平成14年度積立金	200,000	216,000	利息16,000
合計	982,000	998,000	次年度繰越金

3 東京支部同窓会基金

＜収入の部＞ (単位：円)

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	690,000	690,000	
2 寄付金・特別収入	-	178,000	寄付金、ボズカード売上金
3 本会計より	1,300,000	100,000	
収入合計	1,990,000	968,000	

＜支出の部＞ (単位：円)

項目	収入金額	備考
1 ご祝儀	100,000	母校校舎竣工記念式典
2 次年度繰越金	868,000	
支出合計	968,000	

※総会計報告

収入		支出	
・会費(5000×266人)	1,330,000	・東洋軒会代	1,288,238
・本部より会場費	10,000	・講師謝礼	120,000
・御祝儀	50,000	・諸経費	102,189
・本会計より	120,427		
合計	1,510,427	合計	1,510,427

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成15年5月7日

平成14年度会計監査 細田 和子 ⊗
 湯 沢 法 子 ⊗

「揺籃」の誕生

〜かたちとこころ〜

井上玲子先生



のおさげ髪の私がいいたのです。この幸せな気分を形にしたいと思いました。人生の揺籃期を大切に育ってほしい、時の流れの中で、時代のうねりを、自然体で受け止められるような精神を育てる力強さと温もりを表現したいと考えました。少し固い言葉ですが「揺籃」というテーマに決めたのです。

昨年十月、母校の校舎改築記念事業のひとつとして、彫刻「揺籃」を制作しました井上玲子でございます。校舎の中庭に、生徒達に親しんでもらえる現代彫刻を置きたいという同窓会本部と実行委員会の発案でした。前庭には清水多喜示先生の「すこやか」像がありますので、今回は同窓生の手による抽象彫刻がよいのではということ、他に応募する人もないままに東京支部

の推薦により私がお引き受けを致しました。これは大変名誉な仕事でありまして、同窓会の皆様選ばれた責任を重く受け止めました。工事中の校舎の中庭にも立ってみました。青空をいく雲を追いながら、屈託のない男女生徒の笑い声や足音の中に溶け込んでいる自分を感じました。そこに五十数年前

作品の制作過程の記録は河西八恵子さんご夫妻と浜洋子さんのご協力によってビデオに収めましたので後ほど一緒に見ていただきたいと思います。絵が好きだった私が、どうして彫刻をつくるようになったのか、少しお話をさせていただきます。一九三二年下諏訪町に生まれ、諏訪高女に入りました。すぐに終戦、新制中学、高校と六年間が夢中で過ぎました。宮 芳平先生との出会いが私の人生を決める初めての道しるべだったと思います。宮先生の純粹で品格のある芸術家としてのまなざしは、私の心の中に滲透していました。年を経るにしたがって

はつきりと感じられました。一番大切なことを教えて下さったのだと感謝の気持ち一杯です。無垢な心は無垢な心

に素直に受け継がれたのでしょうか。結婚後、十年程の時が経ち、三十五才位になっていました。夫の職場にはアルバイトの彫刻家が大勢出入りしていました。その中に富樫一さんという石彫の作家がいらつしました。抽象彫刻家として当時の日本を代表して外国のシンポジウムに参加される方でした。我が家へも時々飲みに来られたりして、友人達を集めてデッサン等を教えていただいている中に、イメージを立体に置きなおすという勉強が次第に厳しく課せられるようになり、

どうも、私を抽象彫刻の世界に送り出すようにする富樫さんの思惑に気付いた頃には、私自身、すっかりその気になっていたのでした。これが決定的な第二の出会いとなりました。従来の美術教育にはかけ離れた自由な感性を育てる新しい試みを実験されたような気がいたします。

本日の副題となっております「こころとかたち」についてお話を進めたいと思います。形のあるものを認識することは容易にできますが、例えば風とか時間とか心など、個人個人の感性によって異なるものを形によって表現しようとするのが抽象化する作業といえます。音楽は抽象化されて私達の心に伝わる芸術といえますね。音で喜怒哀楽を理解できても、絵や立体で抽象化

された形から読みとるのは難しいのでしょうか。造る人と見る人はお互いに自由なのです。自由だからと勝手気儘では芸術とは言えません。作者は自分の生き方に哲学を持ち、美しいものに対する普遍的な視点を見失ってはならないと思っています。作品は、その人の言葉であり、生き様を正直に表していますので分身をみるように愛おしくもあり、こわい存在であります。

私は日頃、言葉のデッサンをします。心の中を巡り歩きながら私自身のリズムを作っているようです。

ミエルミエナイミエナイミエナイ
ミエルミエルミエナイ
同じ平面にありたいふつとありたい
触れあつて語りた
ゆりかごに
なりた
揺籃は私の原風景のような形だった
の
か
も
知
れ
ま
せ
ん
。

講師プロフィール
一九五〇年、諏訪二葉高校卒業後、上京して油絵の個人指導を受ける。結婚後、彫刻家富樫一氏と出会い抽象彫刻の世界を知る。アルミニウムを用いて独自の創作活動を展開、一九六九年自由美術協会会員となる。自由美術展平和賞、神奈川県立近代美術館賞など多くの賞を受賞している。

平成十六年

総会報告

十六年度副支部長

伊藤久子（高校13回）

神宮球場から若人たちの歓声が聞こえてきそうな初夏の平成十六年五月二十四日（月）東京支部総会は二五〇名が日本青年館に会して開催されました。遠く諏訪からは校長先生、鮎沢先生、熊井先生、同窓会本部の皆様が、また小町谷先生、野村とも先生にもご参加頂き、懐かしく過ごしました。

事業報告では幹事会を二回開催にして良かった点の方が多かったこと、総会案内の発送も十二、十三回生の幹事の方々だけの協力で、手際よく処理できたこと、パソコン化に伴い、本部名簿を参考に五六〇名の会員追加をしての学年名簿の発行等が報告されました。会計報告では、維持費納入状況をグラフにして納入率アップの努力も報告されました。事業計画案では、会報の発行、会費納入者を増やすための新規会員へのお誘い、今後の運営を考えた内規の改定を検討したい旨が発表され、予算案も含め全て無事承認を得ることが出来ました。新役員の挨拶では、岩井次期支部長が、同窓会がそれぞれの人生を豊かに切り開きつかけの場

になってほしいこと、旧役員の挨拶では、伊藤支部長が「役員一人一人が自発的に様々な工夫や試みをして下さったことが一番うれしいことでした。」と話され、私達もやりがいを感じたひとときでした。昼食時は来賓の方々には縁のある学年の中に入って戴き、談話を楽しんで頂けたと思います。

第二部の講演では宮坂静生先生に「死生観―これからの生き方を考える―（別掲）」と題して諏訪地方も登場し、芭蕉や子規等の逸話をいろいろあげて話して頂き、考えさせられました。

第三部では高女二十六回生の小山しげ様の多才なお話を、また高校十二回生小暮玲子様による「ロンドンの夜の雨」さらさらの快い解説と琴演奏を楽しましました。次回はお祝いの花束贈呈になる高女三十四回生のご出席を心よりお待ちしております。

参加者の感想から

* 最高齢の小山さんのお話はとてもパワフルで、元気を頂きました。

* 講演のタイトルは重く暗いイメージでしたが、ユーモアやテンポ、声の大きさに引き込まれました。身近に感じのお話でこれからの生き方の参考にになりました。

* 先輩の素晴らしい琴の演奏は、この会にふさわしく、心に沁みました。

平成15年度諏訪二葉高校同窓会東京支部会計報告書

（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

1 本会計

<収入の部>

（単位：円）

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	2,150,950	2,150,950	
2 維持費	1,600,000	1,669,160	振替1,246,160(1,356名)、現金423,000(421名)計1,777名
3 寄付金等	0	183,800	総会講師、ご遺族、会員等より
4 雑収入	100	57	預金利息
収入合計	3,751,050	4,003,967	

<支出の部>

（単位：円）

項目	予算額	支出金額	備考
1 総講師謝礼・お車代	120,000	120,000	
2 会場費用・諸経費	146,000	103,489	
3 名簿積立金	200,000	200,000	名簿基金へ
4 名簿追加訂正版費	165,000	128,940	学年版3000部（パソコン入力費含む）
5 弔慰金	10,000	4,590	弔文レタックス
6 役員通信費・交通費	100,000	98,740	役員通信費37,000、交通費61,740
7 役員会費用	100,000	74,613	役員会5回分
8 幹事会費用	300,000	457,367	幹事会3回分、前年度第3回幹事会（H15.4.9）含む
9 送料・通信費	330,000	354,960	総会・幹事会案内送付等宅急便
10 印刷費・コピー代	95,000	51,918	封筒印刷、資料印刷、紙代、コピー代
11 事務用品	10,000	11,361	
12 渉二葉関係	84,000	76,800	本部総会交通費、歴代支部長会補助、旧役員慰労会補助
13 外連合同窓会	58,000	66,000	東京同窓連、南信同窓連
14 雑費・予備費	10,000	200	同窓会基金端数不足金
支出小計	1,728,000	1,748,978	
13 同窓会基金積立金	0	183,800	寄付金等より
14 次年度繰越金	2,023,050	2,071,189	
支出合計	3,751,050	4,003,967	

上記の通りご報告いたします。

平成16年3月31日

会計係 春宮 みづほ ◎
田中 みどり ◎

2 東京都支部名簿基金

（単位：円）

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	998,000	998,000	
2 平成15年度積立金	200,000	200,000	
合計	1,198,000	1,198,000	次年度繰越金

3 東京支部同窓会基金

（単位：円）

項目	予算額	収入金額	備考
1 前年度繰越金	868,000	868,000	
2 寄付金等	0	184,000	
合計	868,000	1,052,000	次年度繰越金

※総会計報告

収入	支出
・会費(5000×249人) 1,245,000	・シダックスフードサービス会代 1,297,642
・本部より会場費 10,000	・講師謝礼 120,000
・御祝儀 45,000	・諸経費 105,847
・本会計より 223,489	
合計 1,523,489	合計 1,523,489

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成16年4月29日

平成15年度会計監査 久保田 孝子 ◎
齋藤 せつ ◎

私の死生観 これからの生き方を考える

宮坂 静生先生

ただいまご紹介にあずかりました宮坂です。今日は日本人の死生観、死をいかに受容するかという事を、近世の松尾芭蕉と現代の宗教学者岸本英夫氏の死生観を中心としてお話ししようかと考えます。

死生観と言いますと何か暗い話だと思いかもしれませんが、死を考えるということは目新しくも暗くもなく、いかに生きるかを考えさせることです。

なかなか死に対しては、いざ自分のこととなりまずと決断がつかない。当然です。そこで死に対する迷いを抱いたままで死を迎えることのないように、医療関係者が様々な情報を元に共に考えたいという訳です。

一万年位前の縄文時代は、特に諏訪あたりが日本の中心地ですが、その縄文時代の人は魂が大事だと考えていた。



縄文文化の人間の世界には、この世があつてあの世がある。人間がなくなる、魂というものは肉体を離れてあの世へ行き、先祖と一緒に暮らす。そして、あの世にいた魂はやがてこの世に帰ってくる。こういう輪廻の考えをもっていたんですね。この様な日本人の古くからあつた輪廻の考え方を取り入れたのが法然と親鸞です。

次に稲作や牧畜の弥生時代、人間が自然を支配する時代になり、さらに科学文化の時代へと入ってゆきますが、我々の浴している科学文化の恩恵の根底にあるものは、この縄文文化と弥生文化です。人間が自然を支配する弥生時代に入ると、人間が中心となり自然界を見下すこととなります。そして人間界の中に、しっかりと人間の顔を保持し神様を作りましようと言つてできたのがキリストであり、仏陀、マホメットなんです。人間界が中心ですから、自然に帰るなんて事が出来なくなつてしまふ。そこに人間の孤独というものが生まれてくる。

無神論という考え方が二十世紀になつて力を持つてきました。神も仏もするものがないのが現代です。自然

界というものをもう少し広い形でもう一遍人間社会に復活させなければ、人間の孤独というものは救えないのではないかと考えます。

次に芭蕉の考え方を紹介いたします。芭蕉は「欲望は人間にとつて愚だ、という事を一生の間考えなさい」と座禪の師から教えられた。また『莊子』を読む中で無用の用を知つた。それが一見無用に見える文化とか教養のようなものだと言つてひたすら勉強しましたが、自然の状態、自然の人情にふれなければだめだと悟つて旅に出ます。百五十日、六百里という最後の旅は『奥の細道』として周知ですね。

芭蕉は五十一才で亡くなる二週間前に「この秋は何で年よる雲に鳥」こういう句を作り、今まさに雲に入ろうとする渡り鳥の姿に、旅先の、いや生涯の自分の放浪の姿を見たのです。

最後にまとめですが、岸本英夫先生という東大の宗教学の先生が、昭和二十九年にアメリカの大学へ客員教授として行つてゐる時に、黒色腫という皮膚癌にかかり、余命三ヶ月と言われました。これからどう乗り越えようか計画を作つて頑張つたら、明日死ぬ、明日死ぬと思ひながら十年生きた。そういう中で『死を見つめる心、痛と闘つた十年』という本を書いた。この本が現代の死生観の出発点になつたのです。

が、これは大変良い本です。

結局我々が死を怖れるのは、何を怖れるかという、死を目前にした肉体的苦痛、それを何とか乗り越えたいという事。もう一つは、自分がこの世からなくなつてしまふ、自分の消滅という怖ろしさ。このふたつですね。

岸本先生は、極めて合理的にものを考える。実体感を持つて感じられるのは、今生きている人間の命だけであり、死というものは実体ではないというのです。死と同じに自分もなくなる訳だから、結局その時にどう考えるかという、死を別れと考えることだと。簡単なようですが、死を別れと日常の次元で考えられれば、死は怖ろしくなくなりません。そう考えれば、あまりにばたしなくて死を受け入れることになるのだらうと思ひます。高見順さんの詩『黒板』にあるように、「じゃあ、諸君！」と言つて人生を去る、これが結局結論なのです。

講師プロフィール
一九三七年長野県に生まれる。
俳人、俳誌『岳』主宰、信州大学名誉教授(医学部)。NHK教育テレビ「このころの時代―宗教・人生」にも出演。著書・句集に『俳句第一歩』『花神俳句館 宮坂静生』など多数。東京では二葉高校同窓会のメンバーを中心に句会「石路の会」を行つてゐる。

戦中戦後頑張り抜いた
ことを誇りに

諸井くみ子(高女38回)



テレビから流れ
てくる涼やかな歌
声「涙そうそう」。
情感あふれる詩を
のせたこの歌は大
切な人々との思い出を蘇らせ、古いア
ルバムの中からは諏訪高女時代の友人
が次々と微笑んでくれる様で幸せなひ
とときがある。

光陰矢のごとし、卒業から早、来年
はもう六十年となる。

高女三十八回クラスは、戦中戦後に
かけて女学生時代を過ごし、夢多き年
頃に二度とない様々な体験をしたが、
皆純真無垢、一途に頑張り抜いたこと
を何よりの誇りと思っている。

だより

活動は、年に一度「懇親の集い」を
開催、運営は「幹
事マニユアル」に
従い永続的なクラ
ス会の維持に努め
ている。変色した
古いノートは歴代
幹事による記録や
資料で、今や貴重
な財産となり引き
継がれている。
節目の三十周年、

五十周年は諏訪と合同で恩師を囲み、
多数出席の有意義な会が開催された。
六十周年も：との企画もある由で楽し
みにしている。

何分にも気楽な仲間同志、当初の話
題はわが子から孫のことへ、時にはよ
ろず相談風？なこと等々で愉しんだ。

いつまでも若いつもりだったが、昨
今では足腰の不調や老親の介護、ご家
族の病気など何かと身辺には変化があ
りお互いを気遣う話題となってきた。

そして体調不良はあながち我が身のみ
ならずと少しの安心感さえも憶え、お
互いに元気で行こうよ！の連帯感すら
も湧き、大きな収穫を得た思いでその
日を締めくくるのである。

常々言語行動を豊かにする人は老い
を遅らせるとか。そのためにも同期
の友との楽しい語らいの効用は大きい
と思う次第。可能な限りクラス会の折
りにはお目にかかりたいと思うこの頃
である。

アマリスの会

浅川かね子(高校3回)

一九五五年頃、仲間のOさんが河西
健児先生に偶然にお会いした折りに、
同期会を作ったら如何、と勧められた
ことが発端となり、数人の方々に呼び
かけて、一九五七年に第一回の同期会
が開かれました。その折り、卓上に

飾ってあったアマリスの花を、Mさ
んが、最初の名簿の表紙に描きました。
それ以来この同期会を「アマリスの
会」と呼ぶことになりました。

現在は百余名の会員数ですが、仲間
の熱い思いによってアマリスの会は
支えられています。会の記録ノートを
編みますと、幹事さんの肝煎りで自然
の中で旧交をあたたため合った年もあり
ます。会の開催を隔年にしてしまし
うか、と試みたこともありましたが、
やはり毎年お会いしたいと、すぐに元
にりました。最近は立地条件の良い
新宿のホテルで行っています。

二〇〇三年の会には、故郷から鮎沢
渡先生、三村(今井)ゆき江先生、小
松一弘先生、そして友人の四人も遠路
東京までご出席下さいました。中には
数十年振りという方もありました。



顔をじっと見
つめ合って、
数分後には五
十年前の日々
にもどり、感
無量。
先生方から
は、それぞれ
ご趣味の自然
観察、日本画
水彩画・尺八
演奏などのお

話を、また二葉の頃は無我夢中で一生
懸命だったこと、二葉での貴重な経験
と出会いを大切に思っているとの、あ
りがたいお言葉を頂きました。私達は
二葉で育ててもらいました。二葉が自
分たちの原点になっています。

昨年一年間でアマリスの会員三人
が永遠の旅に出ました。私達は本当に
一日一日が大切になってきています。
お顔を見ながらゆつくりとお話を交
し、元気を分かち合うアマリスの会
を、今年十一月五日に開催します。

九十七才の篠原先生を囲んで

加藤菊江(高校4回)

私たち昭和二十七年卒業の高校四回
生は、学年の半分は終戦の翌年二十一
年に諏訪高女入学、途中高校となり六
年間二葉高校に在籍いたしました。そ
して卒業五十年を過ぎた今年、上諏訪
で同年会が開かれました。その発案と
なりましたのは篠原先生でございます。
先生は明治四十年生まれ九十七才にな
られますが、大変お元気で是非同年会
をと、生まれ、東京や遠方からの出席
も含め約八十名、上諏訪在住の小松先
生も出席され七月五日華乃井ホテルで、
すばらしい同年会となりました。
篠原先生は写真の通り、とても年令
には見えない昔のままのお姿で、そし
てまた私たちに教訓を下さいました。

同期会

それは「毎日日記をつけるように」とのこと。先生の長年の教師生活、そして現役を離れた後もなおお私共教子と深いつながりの日々、貴重なお話しに感銘を受けました。

小松先生は広い

ご趣味をお持ちで、手製の尺八で澄み通る音を聞かせて下さったり、また絵は特にすばらしく、上野の森美術館で入選（一九九七）された「北信濃・春を待つ」の絵を絵ハガキにされ、全員が頂きました。信州らしい景色で、自然が美しい郷里を嬉しく思いました。七十才を越えた私たちですが、卒業以来初めて逢った同級生ともすぐ話が合い、会場は何チャン何チャンで、大にぎわい。学生時代にもどった気分です。



「白き翼」を歌いました。今回は篠原先生の白寿の会をしましょうと、先生はじめ全員の健康を願って散会致しました。

同年会の後、久しぶりに逢った友人との輪が広がったよろこびを感じております。
（篠原先生は平成十七年一月二十九日永眠されました。）

同じ責任感と自負で

斎藤せつ（高校14回）

少し遡るが、四年前に参加した同期会は「出席者がいないから出席してほしい」との依頼を受けての参加だった。それまでは、三年に一回の同期会で、一言で言うなら、次の幹事を決めて幹事を交代するための集まりという感を持った。四年前の参加者がいないという反省から、翌十三年からは毎年幹事を交替し、年一回同期会を行うことを決めた。同時に同期会の輪を広げたいために、会報を作成して写真や情報で同期会や東京支部の現況を伝えることにした。年一回の同期会を実現して

から、幹事が毎年場所や催しを楽しめる工夫をこらし、丁寧な同期会を積み重ねてきた結果、やっと同期会と言える参加人数で安定してきた、というのが十四回生の実情であった。
同期会の目的はむろん、同期の親類を図ることだが、この四年間、常に頭から離れなかったことは、私たち十四回生が、いずれ東京支部役員、正副支部長を選出しなければならぬ、という責

任とその重圧であった。同期会で集まるたび共通の悩みは、「役員を誰にお願いするか」ということであった。だが結果として、この一つの課題が、同期の仲間を固く結びつけることになった、と今感じられる。



昨年、支部長・副支部長候補を無事選出することができ、同時に役員をサポートする体制も何とかできてきた。今年も同期会をまじかに控えている。今年も昨年までとは異なり、いくぶん

気持も軽い。思えば、顔も知らなかった者同士が、知らず知らずのうちに、同じ責任感でつながってきたという自負も感じている。私達十四回生にとって、今からが本場の同期の仲間という気がしている。
「ふたば21」だより
安田早苗（高校21回）
十六年二月二十二日（日）昼前、故郷への玄関口「新宿」京王プラザホテルに五十代半ばとなった同期生（「ふたば21」と名付けられています）二十余名が集いました。皆勤賞の方、初参

加の方もいらつしゃいます。在校当時はクラス替えがあり、授業はコース別でしたので割と皆どこかで接点があり、全然知らない人は余りいないというのが私たちの特徴です。

食事も半ば過ぎて、一人ずつ「近況報告」です。「勤続三十周年です」「ブティック経営してます」「娘に息子に良い方を紹介して」「孫ができました」等々。良き家庭人・良き社会人としてそれぞれ素敵に生きておられます。

思い出話に花が咲き、欠席の方の近況に思いをはせたり、お開きになる頃には皆がああ「二葉生」のときの瞳でより一層輝いています。口々に「この会で元気を貰う」とおっしゃいます。

二次会は「ルノール」のコーヒードまた盛り上がり、ついつい長居。そろそろ黄昏時「また来年！」「さあ明日からまた頑張るね！」
「ふたば21」は同期会開催が十余回になります、これからも毎年ずつと開催されます。未参加のアナタ、みんな待っています。もっと元気になる素質えますよ!!



—本部親睦バス旅行—
甲斐路をたずねて

北山敬子（高校7回）



東京では珍しく、三日間降り続いた冷たい雨も嘘のように晴れ上がり、絶好の旅行日和に恵まれました。

十月六日、本
部恒例の親睦バス旅行は「秋の甲斐路・文化の香りを訪ねて」と謳って、バス三台に分乗した一二六名の方々を満足させるに足る、ゆとりのある中身の濃い、役員の方々の行き届いた心意気が伝わる一日でした。

東京支部からも岩井支部長以下八名の参加者が、河口湖駅で諏訪からのバスに同乗し、「与勇輝館」「久保田一竹美術館」で溜め息の出る様な職人技の芸術に、ただただ感嘆の声を上げるばかりでした。

興奮した気持ちを静めるかの様に、湯村温泉富士屋ホテルのバイキングでお腹を満たし、ちよつとしたセレモニーで育葉会の報告、平成十九年の二

葉創立百周年に向けてのお願い、「白き翼」の替え歌「ポロポロ校舎」を校長先生、鮎沢先生、平島先生（三人共に元清陵生）の男性三重唱に「え！、そんな歌があつたの」と云う驚きと共に、やんやの喝采、短い時間を上手に使い昼間からちよつとした宴会気分も味わいました。

午後は曲がりくねった細い道を、網渡りの様なバスの運転にははらしながら、高台にある九十年の歴史を持つサントリー登美の丘ワイナリーを見学しました。山を削り貫いた地下室で、一切の温度調節をしない自然を取り入れたひんやりとした倉庫でワインは静かに眠っていました。富士山の全景が映える広いテラスで試飲したブドウ酒にはる酔い気分となり、ほんわか暖かい気持ちで再会を約し、東京勢は甲府から帰途につきました。

楽しい楽しい一日でした。

—南信同窓連親睦旅行—
伊那路でふるさと交流

永田福子（高校14回）

十一月六・七日の南信高校同窓連泊二日の親睦旅行には、わが二葉高校



紅葉の旅となりました。

が幹事校となつていて、役目上行かざるを得ず参加した私でしたが、予想に反してとても楽しく思い出深い信州晩秋の

わが校としては高校七回生の大先輩の三名が積極的に参加してくださり、十三回生が二名、十四回生が二名計七名の参加者でした。人々の心の中に、「ふるさと」とか「同郷」又は、同窓生という言葉がよみがえる昨今、時に東京砂漠といわれる地にあつて、卒業校や地域を越え、かけがいのないふるさとを共有する仲間として、ぬくもりのある親睦交流を図ることはなかなかいいものだ、痛感しました。

なんとと言っても東洋随一といわれる標高三千メートルの駒ヶ岳ロープウェイから見下ろす紅葉した山々の美しさはまさに絶景で、胸のすくような爽快感でした。「ふるさとの山にむかひていふことなし・・・」そんな気分浸つた至福のひとつだったでしょうか!!

コースの最後でしたが上農同窓会長の倉田様のご配慮で、辰野の地でリング狩りを楽しみ、信州人の旅の心を充分満足させてくれました。終わりに、参加された十三回生の塩沢久子さんの歌を紹介させていただきます。

あはれもど
姉妹行楽共に駒ヶ根の
語らい夜更けて霜月七日
(久)

名簿発行について

支部長 岩井志子

平成十年の総会において、八年後の平成十八年に名簿を発行する、という提案が承認されました。

しかしその後、個人情報保護条例との関係で、名簿発行が困難になってきました。本部では、法令との関係を十分研究したうえで結論を出すということで、当面名簿発行の予定はないということです。

従って東京支部もそれに準じ、平成十八年度の名簿発行は取りやめることを第一回幹事会に提案し、承認されました。

また、それに伴う会計のあり方を、第二回幹事会で論議する予定です。

伊藤千代子没後 七十五周年記念の集い

中村洋子（高校12回）

九月二十三日、文京区の全労連会館ホールは急遽第二会場を設置しなければならぬほど、続々とつめかける参加者の熱気にあふれていました。

皆さんご存知と思いますが、伊藤千代子は、諏訪高女（現・二葉）を土屋文明校長のもと大正十一年総代として卒業（高女十四回生）、東京女子大で社会科学の理論学習など社会変革をめざし学生運動をすすめ、一九二八年（昭和三年）三月十五日、治安維持法による全国一斉弾圧で囚えられ、翌年九月二十四日、二十四才で亡くなりました。暗黒政治が吹き荒れている中、校長であった土屋文明は千代子の死を悼み次のような短歌を発表しています。

まをとめのただ素直にて行きにしを囚へられ獄に死にき五年がほどに
 ころざしをつたふれしをとめよ新しき光の中におきて思はむ

高き世をただめざすをとめらここに見れば伊藤千代子のごとかなしき

つどいは女性が自由に活躍できる今の世の礎となった千代子にふさわしく、第一部は、墓所継承者の伊藤善知氏、土屋文明長女の小市草子さん、「ころざしの会」の三澤実氏などの話と「伊藤千代子を歌う三つの歌曲」（中村洋子独唱）が行われました。

第二部では「心の友への手紙」として「伊藤千代子の青春・イエローローズ」を書かれた葛城誉子さん（高校六回生）のお話と、千代子終焉の松沢病院元院長で、同世代を生きた九十八才の秋元波留夫さんによる「千代子の死と治安維持法」と題する講演が行なわれました。参加された多くの方々から「勇気をもらった」と感想を寄せられ、賛同者も四百名を数えました。皆様に感謝を申し上げます。

来年は生誕百年。郷里の諏訪で大規模な記念行事が計画されて居ります。また伊藤千代子については、東栄蔵著「信州異端の女性たち」（信濃毎日新聞社発行）にも、七人の女性のひとりとして取り上げられています。



伊藤 千代子

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます

（平成16年12月31日現在）

《会員》	
高女11	高女11
13 大島まさる様 (中村) H15	27 大園 忍ん様 (井上) H15
15 今井 たね様 (茅野) H13	28 蒲生 シズエ (三浦) H15
16 原田 静枝様 (藤森) H15	28 佐羽千代子様 (中山) H14
17 中島 好子様 (新村) H16	28 田中 藤子様 (清水) H13
18 金子 隆江様 (河西) H16	28 栗林三左子様 (宮原) H15
18 小池 志づ様 (河西) H15	30 小口 初恵様 (小口) H16
19 藤森みき子様 (金子) H16	30 小口 さき様 (木下) H15
20 高橋 八重様 (三井) H15	30 篠原 広子様 (井上) H15
20 土橋さく子様 (小松) H14	31 朝倉登代子様 (朝倉) H16
21 橋本 まつ様 (里見) H14	31 茅野とも子様 (林) H15
21 平林 貞子様 (降幡) H15	32 松崎 すま様 (伊東) H15
21 北沢 貞子様 (関) H15	32 宮本 ソノ子 (宮坂) H15
21 高本 登志様 (古川) H13	32 米沢寿美子様 (原田) H15
22 原 正子様 (小岩) H13	34 杉田 茂様 (宮沢) H16
22 小口 政子様 (藤森) H15	36 貫井登志子様 (林) H16
22 河西 千鶴様 (両角) H16	36 窪田富子様 (小河原) H16
23 清水ちよ子様 (五味) H15	37 高野 君様 (岩波) H16
23 田中博子様 (小笠原) H15	37 鈴木 信子様 (北沢) H9
24 正住 文子様 (増沢) H16	37 鈴木 勢津子様 (松尾) H15
24 吉岡志奈江様 (杉浦) H14	37 川辺 光枝様 (宮坂) H15
25 田島 晶子様 (林) H14	37 浜 愛幸子様 (浜) H9
25 村瀬 れん様 (藤原) H14	37 三田 久子様 (小池) H16
25 森田 智子様 (山田) H15	37 峰島 文子様 (浅川) H12
26 有賀あや子様 (小島) H14	37 持丸きみ子様 (里見) H16
26 笠原 富子様 (笠原) H14	37 稲葉 浩子様 (浜) H16
26 小坂 達子様 (五味) H14	37 池田 康子様 (山口) H16
26 布村 貞子様 (石倉) H16	37 神山三智子様 (帯川) H14
濱 みすゑ様 (中村) H13	37 置山美佐子様 (大宮) H15
	37 中村 悠子様 (五味) H16
	37 奥村 達様 (五味) H14
	37 安藤みさき様 (山崎) H15
	37 高橋 玉江様 (浅川) H14
	37 森 玲子様 (手塚) H15
	37 山口まゆみ様 (山本) H11

東京支部活動記録

《平成14年度》

役員 支部長 北沢 妙子
副支部長 守屋 静子 伊藤 一枝 加室 弘子
会計 稲村 和子 金子 紘美
記録 小島由美子 佐藤すず江 福島 裕子
監査 細田 和子 湯沢 法子

《平成15年度》

役員 支部長 伊藤 一枝
副支部長 加室 弘子 岩井志子 伊藤 久子
会計 田中みどり 春宮みづほ
記録 小田 千恵 菊沢 範子 小松喜久子
監査 久保田孝子 斎藤 せつ

年月日	事項	備考
6/12	第1回役員会	年間事業計画、役員役割分担、「会報」8号の基本方針を検討(4段階構成に変更)、母校校舎竣工記念式典について・15年総会講師について
7/10	第1回幹事会	校舎竣工記念式典関係の詳細と参加への呼びかけ、役員・幹事自己紹介
10/9	第2回役員会	校舎竣工記念式典のご祝儀について、内規の文言一部改正、新卒生への「入会お誘いパンフレット」について、同期会活性化等について検討
12/4	第3回役員会	中間会計監査報告、「会報」初校披露、学年別維持費納入状況について、次期役員選出について
(H15) 1/11	歴代正副支部長会	現状報告等と懇親会(27名/於アルデ)
1/22	第2回幹事会	校舎竣工記念式典関係等の報告、中間会計報告、同期会活性化に向けての情報交換会
3/12	第4回役員会	「会報」発行と報告、総会の内容・案内及び準備等について検討と確認、次期役員(案)確認
4/9	第3回幹事会	新旧合同、総会案内・「会報」等一括発送作業
5/7	第5回役員会	新旧合同、会計監査、係引継ぎ、総会準備
5/22	第6回役員会	新旧合同、総会前日準備・作業
5/23	平成15年総会	出席者256名(会員249名・来賓他7名)

・会報 東京支部だより「二葉」8号発行
・本部理事会出席6回、本部総会出席、校舎竣工記念式典参加(40名)本部親睦旅行参加
・南信同窓連出席5回、南信同窓連親睦旅行参加、東京同窓連出席6回

年月日	事項	備考
6/12	第1回役員会	年間事業計画、役員役割分担、訂正名簿発行の進め方、総会会計報告と反省、名簿管理の方法、総会案内発送方法、東京支部のあり方議論
7/24	第2回役員会	維持費増の工夫検討、次年度役員幹事選出について、総会案内発送実務について、総会講演講師候補、東京支部のあり方の討議の仕方
9/15	第1回幹事会	事業計画と予算、学年名簿発行・総会案内発送実務・維持費の納入状況と納入の働きかけについて、東京支部のあり方の話し合い
(H16) 1/12	歴代正副支部長会	報告・討議事項(同窓会の活性化)(30名、アルデ)
2/5	第3回役員会	維持費納入状況と維持費と経費の関連のグラフ化、16年総会・卒業生勧誘パンフ作成について
3/4	第2回幹事会	学年名簿と総会案内送付先の回生ごとの確認、総会関連、同窓会活動維持のための予算の立て方について話し合い、次年度役員承認
4/8	第4回役員会(拡大)	新旧役員・関連学年幹事で総会案内の発送作業
4/29	第5回役員会	新旧合同、決算報告、次年度事業計画と予算、会則と運営内規の話し合い、総会準備、役員引継ぎ
5/23	第6回役員会	新旧合同、総会前日準備・作業
5/24	平成16年総会	出席者256名(会員247名、来賓8名、客員1名)

・会員名簿(学年版)発行
・本部理事会出席6回、本部総会出席
・南信同窓連出席5回、同親睦旅行参加、東京同窓連出席4回、同40周年記念式典参加

☆両年度、幹事会終了後に役員会を開催。☆本部及び連合会の内容は、各役員会・幹事会にて報告☆幹事会議題は、役員会の事項を受けて検討や承認を受ける。《紙面の都合上、概略のみの掲載です》

原せい子(高22)
荒井勝枝(高22)
杉村ちゑ子(高17)
江原美規子(高14)
岩井志子(高13)
編集委員
礼申し上げます。

☆編集部の強引な要請をお受けして下さった山岸先生をはじめ、ご執筆をお願いした方々には快くお引き受け頂きまして有難うございました。編集にあたりましては十五年支部長の伊藤一枝さんにお世話になりました。御礼申し上げます。

＊同窓会が生き生きするにはまず各同期会がきちんと楽しく行われていなければということ、今回は各同期会の様子を集めに組んでみました。安定して活発に行われている同期会では、そこに参加することが元気の源にもなっているように思えました。

〈編集後記〉

「断想」(「天つ野」より) 宮 芳平
作者は大正十二年から三十六年間、諏訪二葉高校(当時諏訪高女)で図画の教師として授業をする傍ら画作を続けた。森隲外「天寵」の主人公M君のモデルともなる。
昭和十九年発行された二葉高校校友会誌「天つ野」に寄稿した詩、文、挿絵などをまとめてご子息が発行された。
購入連絡先 宮 晴夫
(電話) 0662・52・4059

平成17年 東京支部総会のお知らせ
☆日時 平成17年5月23日(月) 10:30~15:30
☆会場 日本青年館 4Fホテル宴会場「アルデ」(元東洋軒) 03-3475-2525
☆講演講師 葉 祥明氏(画家・詩人・絵本作家)
演題 「絵本を通して心の平和を」
会費 5000円(昼食パーティー)

本部定期総会のご案内
日時 平成17年5月18日(水)10時~
会場 ラコ・華の井(諏訪湖畔)
講演講師 片野 満氏(元岩波映画監督)
映画上映 「夏休みのうた」
(諏訪二葉高校映画部制作 昭和32年)
申込み 本部事務局 0266-52-4682